



追加型投信 / 国内 / 株式

ファンド情報提供資料
データ基準日: 2019年8月30日

優良日本株ファンド〈愛称:ちから株〉 「運用状況と今後の見通し」

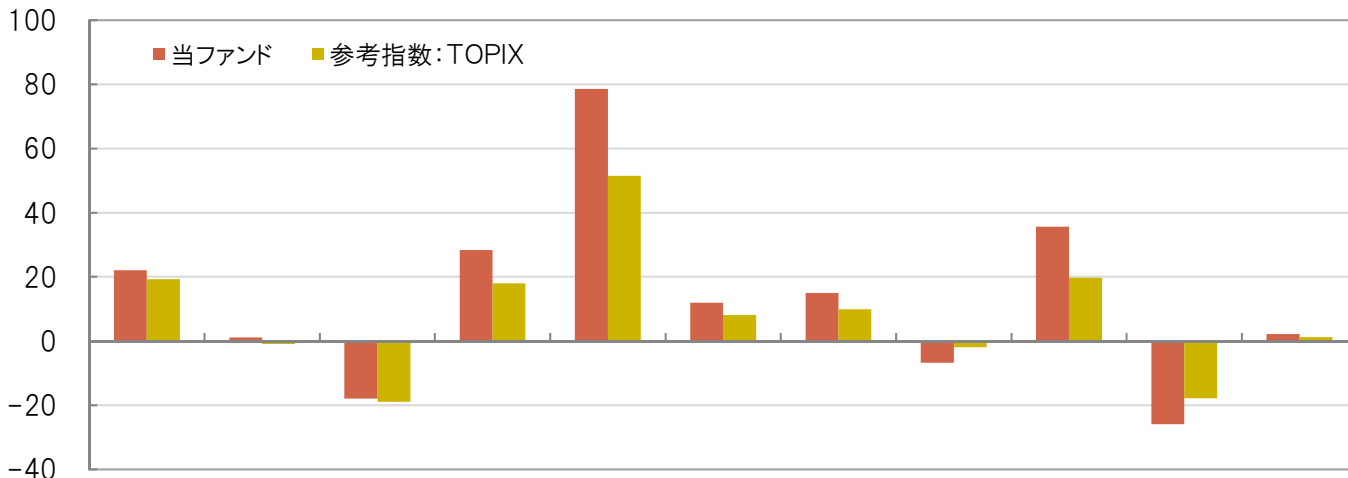
平素より、「優良日本株ファンド〈愛称:ちから株〉」をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。
米中貿易摩擦や米国の長短金利の逆転などを受けて、日本株式市場は上値が重い中でも底固い展開が続いています。このような環境下、当ファンドの運用状況と今後の見通しについてご説明致します。

※本資料は「優良日本株ファンド〈愛称:ちから株〉」の運用状況について投資家のみなさまにご理解を深めていただくために概略を記載したものです。このため、ファンドの商品性、リスク、お申込みメモ等については投資信託説明書(交付目論見書)をご確認いただく必要があります。

設定来の年間騰落率の推移

当ファンドの設定来の年間騰落率は、参考指数であるTOPIXに対して、概ねプラスで推移してきました。2018年において当ファンドは主に小型株の組入れが高かったことによりTOPIXに劣後しましたが、2019年に入り、参考指数であるTOPIXを1.0%上回っています(2019年8月末時点)。今後とも、当ファンドの基本コンセプトである優良で割安な銘柄を厳選することにより、パフォーマンスの向上に努めて参ります。

(期間: 2009年3月18日(設定日)~2019年8月30日)



	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
当ファンド	22.1%	1.2%	-18.0%	28.4%	78.5%	12.0%	15.0%	-6.8%	35.6%	-25.9%	2.2%
参考指数: TOPIX	19.3%	-1.0%	-18.9%	18.0%	51.5%	8.1%	9.9%	-1.9%	19.7%	-17.8%	1.2%
TOPIXとの差	2.8%	2.1%	1.0%	10.4%	27.1%	3.9%	5.1%	-4.9%	15.9%	-8.1%	1.0%

・当ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しております。また、当ファンドの騰落率と実際の投資者利回りとは異なります。
・参考指数は、当ファンドのベンチマークではありません。また、参考指数は、国内株式の値動きを説明するために表示しています。
・2009年の騰落率は2009年3月17日(設定日前営業日)~2009年12月末までの騰落率を使用しており、10,000を起点として計算しています。また、2019年の騰落率は2018年12月末~2019年8月末までの騰落率を使用しています。

■上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。■上記は指数を使用しています。指数については【本資料で使用している指数について】をご覧ください。
■表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。

優良日本株ファンド 【愛称:ちから株】

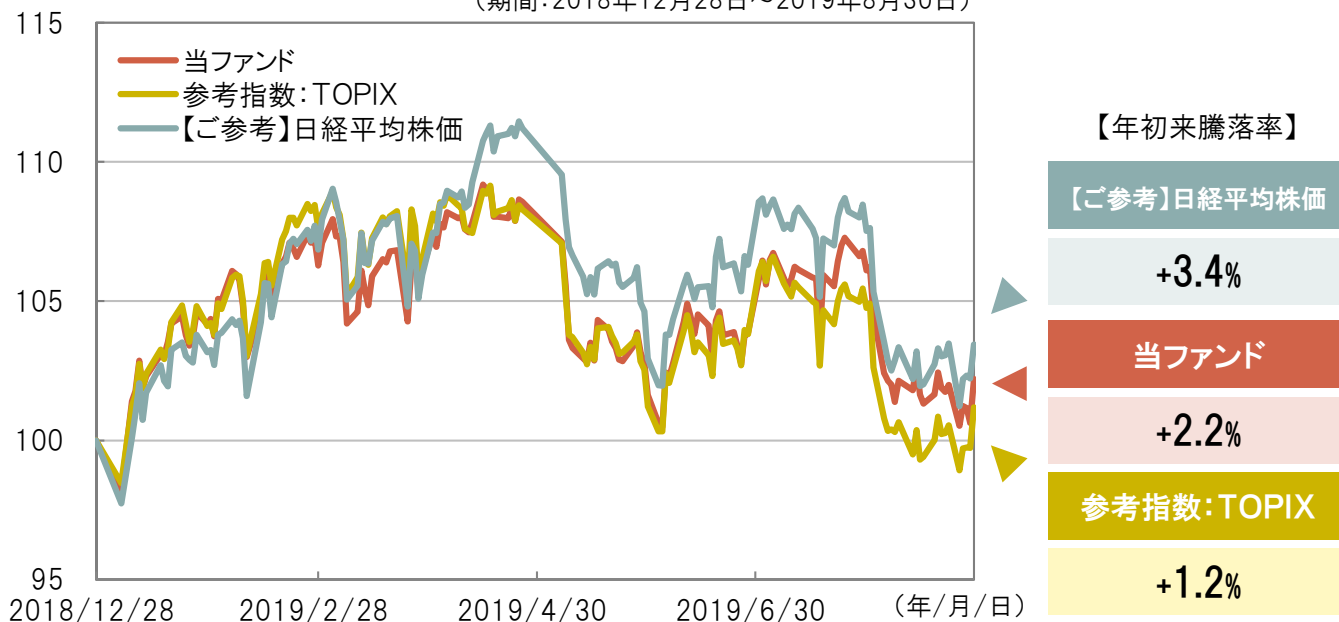
足下の運用状況と運用方針

- 足下2019年6月から8月の3か月間を通じては、参考指数(TOPIX)および日経平均株価を上回って推移しました。同期間においては、株主情報などの需要増で業績好調な「アイ・オールジャパンホールディングス」、新薬の開発確度が高まった「第一三共」などが当ファンドの基準価額にプラスに寄与しました。注目している内需系の小型株や収益力強化を図る大型株の寄与度が増えています。一方、同期間においては、上場来高値更新後の利益確定の売りなどの要因で「バリューコマース」、主力製品が市場想定より不調な「古河電気工業」などが基準価額にマイナスに影響しました。なお、同期間の当ファンドの投資行動としては、業績面や株主還元の動向、そして中小型銘柄の発掘などの観点から「三菱UFJフィナンシャル・グループ」、「アイ・オールジャパンホールディングス」などを新規に組み入れる一方で、「三井住友フィナンシャルグループ」、「三菱商事」などを全売却しました。
- 足下では小型株のウェイトをやや引き上げ、2019年8月30日時点のポートフォリオの規模別構成は、大型株47%、中型株33%、小型株20%(うち東証マザーズ2%)となっています。
- 調査運用体制の強化を継続しており、当ファンドでは今後も銘柄を厳選しつつ、大型から小型までの規模や業種のバランスを調整し、リターンを追求していく方針です。銘柄を厳選するにあたり、経営面、財務面、収益面等を精査しつつ、より確度が高い銘柄への入れ替えを実施していくことで、中長期的な基準価額(分配金再投資)の向上をめざして運用を継続して参ります。

・市況の変動等により、上記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。

2019年初来:当ファンドと各日本株指数のパフォーマンス比較

(期間:2018年12月28日~2019年8月30日)



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	6-8月	2019年初来
当ファンド	5.1%	1.1%	-0.2%	2.3%	-6.4%	2.2%	2.2%	-3.7%	0.6%	2.2%
参考指数:TOPIX	4.9%	2.6%	-1.0%	1.7%	-6.5%	2.6%	0.9%	-3.4%	0.0%	1.2%
【ご参考】日経平均株価	3.8%	2.9%	-0.8%	5.0%	-7.4%	3.3%	1.2%	-3.8%	0.5%	3.4%

・2018年12月28日=100として指数化。

・当ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しております。また、当ファンドの騰落率と実際の投資者利回りとは異なります。

・TOPIXは、当ファンドの参考指数です。日経平均株価は、当ファンドのベンチマークまたは参考指数ではありません。また、各指数は国内株式の値動きを説明するために表示しています。

■ 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。■ 上記は指数を使用しています。指数については【本資料で使用している指数について】をご覧ください。

■ 表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。

優良日本株ファンド 【愛称:ちから株】

今後の市場見通しとファンド・マネジャーの注目点

【外部要因に左右されつつも底固く推移】

米中貿易摩擦などパワーバランスの難しい世界情勢が続くなか、各国とも内向きの政策スタンスを強めており、主要国の関税交渉や金融政策に左右されやすいマーケット展開が引き続き想定されます。ただし、過去5年間(2014年8月29日～2019年8月30日)におけるPBRの推移を見ると、現在は割安な水準(【注目点①】日経平均株価のPBRの推移)にあり、これらを考慮すると、今後の国内株式市場は底堅く推移すると思われます。消費増税の影響は懸念されますが、追加経済対策等に期待しています。

【株主還元策等に注目】

難しい情勢の下、企業の抜本的な経営改革の動きが強まっており、株主還元策や構造改革等を推進しつつ積極的なコーポレート・ガバナンス(企業統治)の改善を進める企業が増えています。東証の市場改革が進むなかでは、今後一段と自社の企業価値向上へ向けた経営の変化や活発化等が期待され、当ファンドが個別銘柄を厳選するうえでも注目しています(4ページ:【ご参考】当ファンド組入銘柄の株主還元公表・低PBR一覧)。

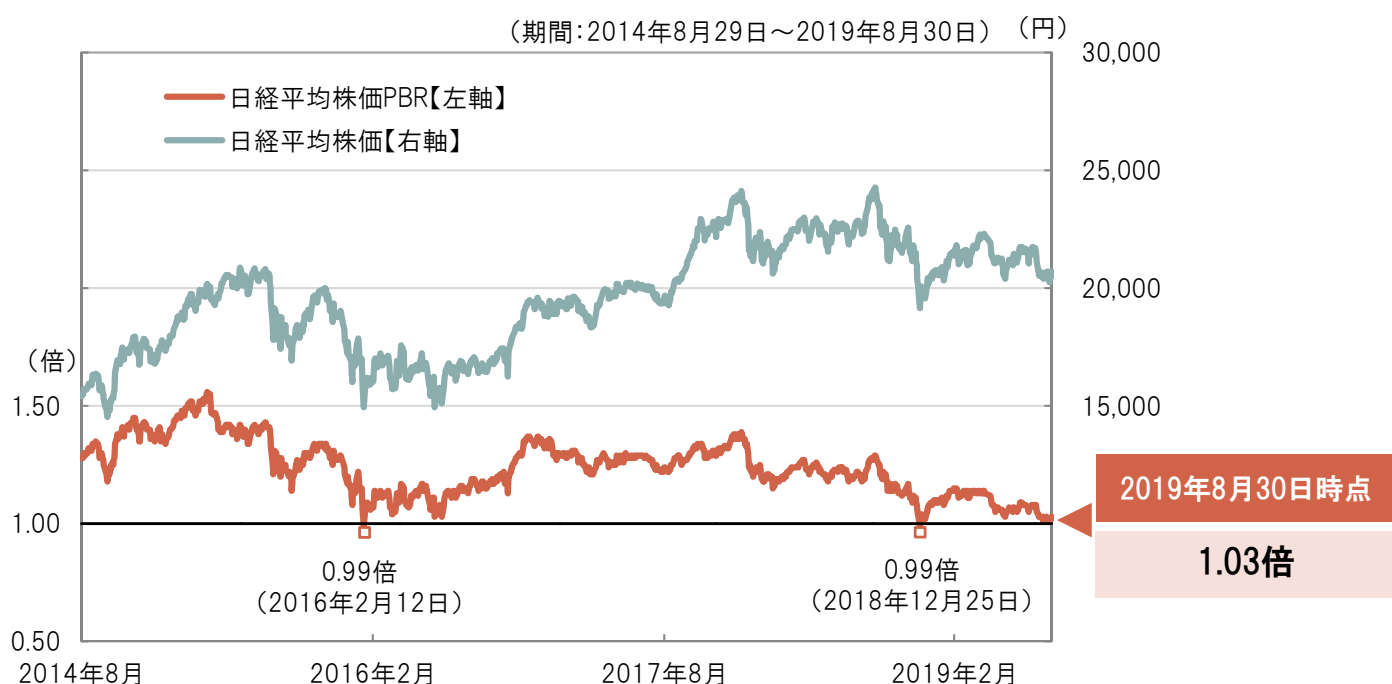
【マネジメントの判断に着目】

増配は株主への自信の表れ、自社株買いは株価が割安と企業自身が判断している表れと考えられます。「株主への姿勢」を定性面のポイントの一つとしている当ファンドでは、これらのアクションの基となるマネジメントの判断に継続して着目しています(4ページ:【注目点②:株主還元】上場企業(非金融法人)の配当総額と自社株買い、【ご参考】当ファンド組入銘柄の株主還元公表・低PBR一覧)。

・市況の変動等により、上記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。

【注目点①】日経平均株価のPBRの推移

過去5年間(2014年8月29日～2019年8月30日)における日経平均株価のPBRの推移を見ると、PBR1.0倍割れで下げ止まる傾向が見られました。

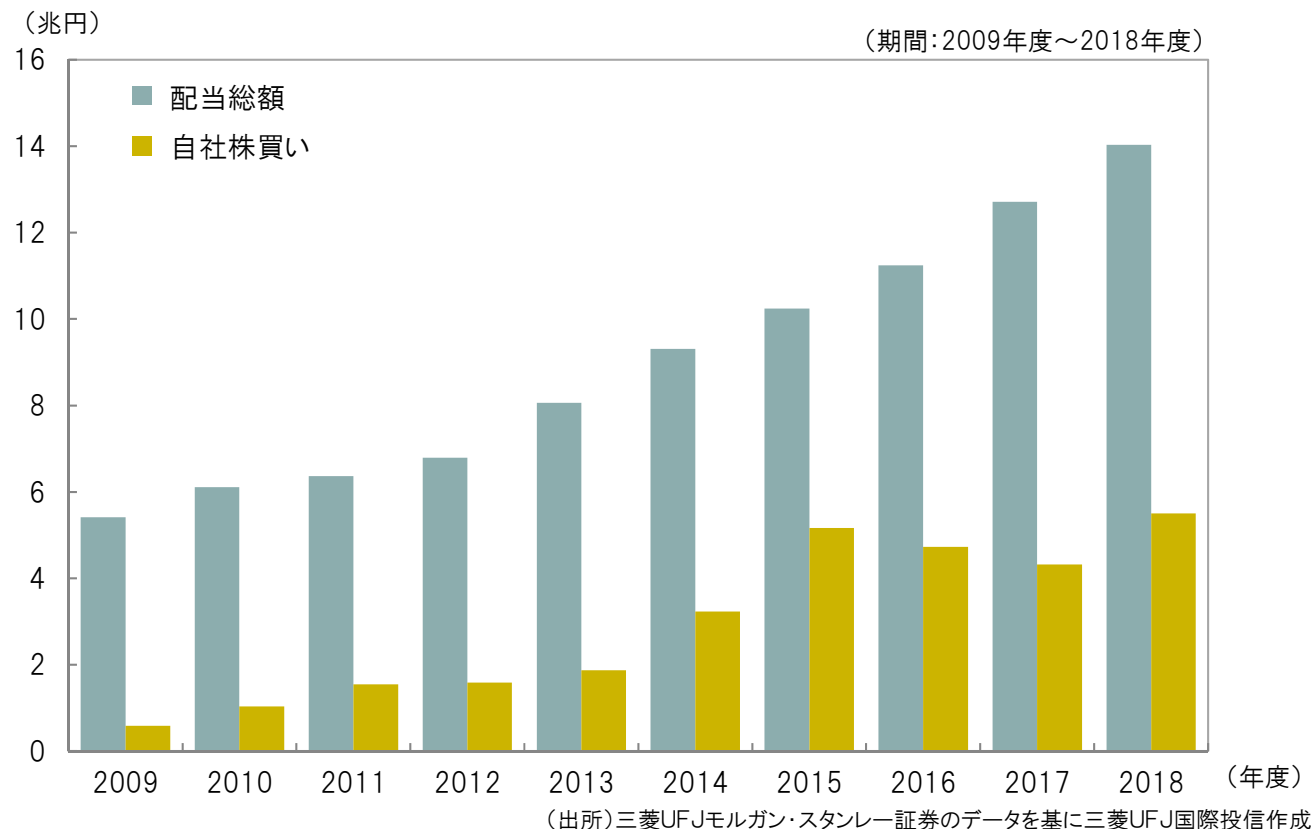


(出所)Bloombergのデータを基に三菱UFJ国際投信作成

■上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

優良日本株ファンド 【愛称:ちから株】

【注目点②:株主還元】上場企業(非金融法人)の配当総額と自社株買い



【ご参考】当ファンド組入銘柄の株主還元公表・低PBR一覧

(組入比率:2019年8月30日時点)

増配

銘柄コード	銘柄名	組入比率
8306	三菱UFJフィナンシャル・グループ	4.6%
6758	ソニー	3.3%
8766	東京海上ホールディングス	3.0%
4063	信越化学工業	2.3%
6501	日立製作所	2.2%
2432	ディー・エヌ・エー	2.1%
7752	リコー	2.1%
6035	アイ・アールジャパンホールディングス	2.0%
8001	伊藤忠商事	2.0%

自社株買い

銘柄コード	銘柄名	組入比率
7203	トヨタ自動車	5.8%
8306	三菱UFJフィナンシャル・グループ	4.6%
6758	ソニー	3.3%
8766	東京海上ホールディングス	3.0%
4063	信越化学工業	2.3%
2432	ディー・エヌ・エー	2.1%
8001	伊藤忠商事	2.0%
3626	TIS	2.0%
6702	富士通	1.7%

低PBR(割安株)

銘柄コード	銘柄名	PBR(倍)
8306	三菱UFJフィナンシャル・グループ	0.4
7259	アイシン精機	0.6
5801	古河電気工業	0.7
8031	三井物産	0.7
4114	日本触媒	0.8
7752	リコー	0.8
1963	日揮	0.8
5713	住友金属鉱山	0.8
6925	ウシオ電機	0.8

(出所)各社資料、QUICKのデータを基に三菱UFJ国際投信作成

・上記は、株主還元(増配、自社株買い)を公表、並びにPBRの低い当ファンドの組入銘柄の一部をご紹介します。したがって、個別銘柄の推奨を目的とするものではなく、当ファンドにおいて上記の銘柄を今後も組み入れることを保証するものではありません。・増配、自社株買いは、2018年9月~2019年8月の期間に増配、自社株買いを実施、もしくは発表した銘柄を記載しています。・上記は、当ファンドの組入銘柄の一部の事例を紹介したものであり、全てを網羅するものではありません。

■上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。■表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。

優良日本株ファンド 【愛称:ちから株】

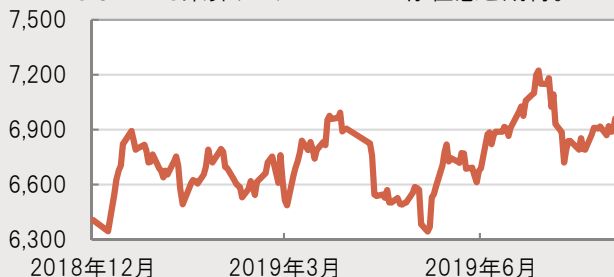
【ご参考】 当ファンド上位組入銘柄(株式時価総額別)

各銘柄の株価(期間:2018年12月28日~2019年8月30日 単位:円)

大型株

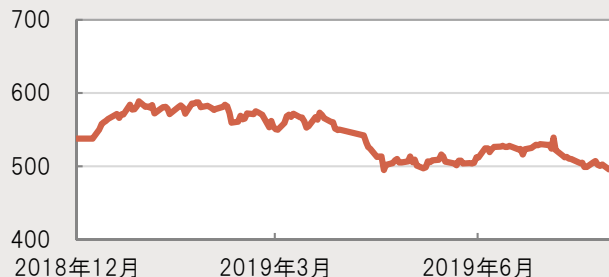
7203 トヨタ自動車

注目が高まる電気自動車(EV)分野では、2020年代前半に航続距離が大幅に延びる「全固体電池」を実用化する方針。また、EVは短距離向け、燃料電池車(FCV)はより長距離向けとし、引き続きFCVの開発にも注力する方針。自動車の電動化が進展するなかでも業界リーダーとしての存在感を期待。



8306 三菱UFJフィナンシャル・グループ

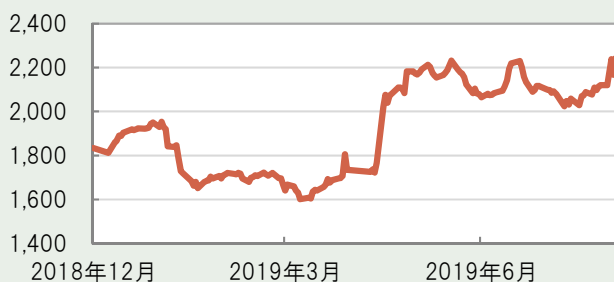
傘下に銀行、信託、証券、カード会社等を有する総合金融グループ。自己資本比率など財務の健全性は国内大手銀行の中でも随一。「世界に選ばれる、信頼のグローバル金融グループ」をスローガンにアジア、米州などで事業拡大をめざす。



中型株

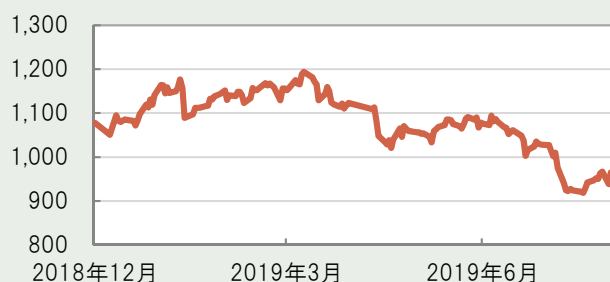
2432 ディー・エヌ・エー

主力のゲーム事業に加え、Eコマース事業、スポーツ事業などを展開。新規事業にも注力。ゲーム事業では、任天堂との協業タイトルの配信が今期に予定されており、また株式会社ポケモンとの協業も発表された。ヒットタイトル創出による業績拡大に期待。



7752 リコー

複写機大手。人員削減や拠点の統廃合による固定費低減など構造改革で成果をあげ収益性は改善。今後は成長戦略の実行へと舵を切る。徹底した売価管理による収益力向上や商業印刷機の拡販などを通じた業績再成長に期待。



小型株

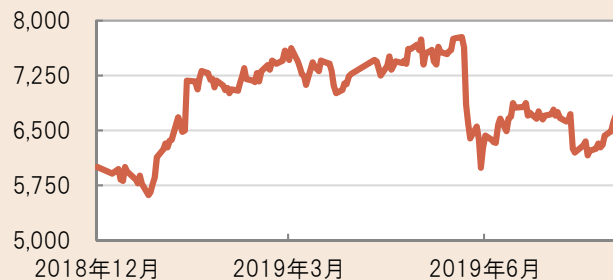
3186 ネクステージ

愛知県に本社を置く中古車販売大手。ローコストオペレーションによる低価格戦略と高い商品回転率などを強みに、集客力の高い大型店を北海道から九州まで広域に展開中。買取事業や整備、保険等の付帯サービス強化も進めており、高い利益成長の継続に期待。



3563 スシローグローバルホールディングス

国内大手の回転ずしチェーン「スシロー」を運営。うまさ・鮮度・高品質を低価格で提供することで高い支持を獲得している。今後も積極的な新規出店に加え、新業態によるすし周辺市場の開拓や韓国、台湾など海外展開本格化による成長に期待。



・コメントは作成時点のものであり将来予告なく変更されることがあります。上記の時価総額別表記は、東京証券取引所によるものです。

・上記は、当ファンドにおける株式時価総額別(大型・中型・小型)の組入上位銘柄(2019年8月30日時点)をご紹介します。したがって、個別銘柄の推奨を目的とするものではなく、当ファンドにおいて上記の銘柄を今後も組み入れることを保証するものではありません。

(出所)Bloombergのデータ、各社資料等を基に三菱UFJ国際投信作成

■上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

優良日本株ファンド 【愛称:ちから株】

【ご参考】想定する日経平均株価水準

為替・PER(株価収益率)水準からの日経平均株価予想(円)

(2019年8月30日時点)

- 日経平均株価の2019年度の見通しは19,100円から23,500円を想定します。

※日経平均株価は当ファンドのベンチマークまたは参考指数ではありません。

- 前提は日経平均株価の予想PERで11.0倍～13.0倍、為替は105円～110円/米ドルとしています。予想PERが13.0倍、110円/米ドル等の前提が整った場合、日経平均株価は23,500円程度の水準を想定、予想PERが11.0倍、105円/米ドル等を前提とした場合では、日経平均株価は19,100円程度の水準を想定します。

		2019年度予想			
		PER11倍	PER12倍	PER13倍	PER14倍
為替 レート	100円/米ドル 115円/ユーロ	18,400	20,000	21,700	23,400
	105円/米ドル 120円/ユーロ	19,100	20,900	22,600	24,400
	110円/米ドル 125円/ユーロ	19,900	21,700	23,500	25,300
	115円/米ドル 130円/ユーロ	20,700	22,600	24,500	26,300
	120円/米ドル 135円/ユーロ	21,500	23,400	25,400	27,300

・日経平均株価予想＝一株当たり純利益×PER(株価収益率)

※「一株当たり純利益」は2019年度の三菱UFJ国際投信の予想値を使用(2019年8月30日時点)

ファンド・マネジャーのコメント



ファンド・マネジャー
野崎 始 Hajime Nozaki

当ファンドはおかげ様で、2019年3月に設定から丸10年を迎えました。その間、リーマン・ショック直後や東日本大震災の混乱期、様々な局面を経ながら主担当として当ファンドの運用に取り組んで参りました。常に意識しているのは、大型から小型までの規模や業種等のバランス等を考慮することによる、リスクコントロールと中長期的な基準価額の向上です。

2019年4月、運用体制を拡充すべく当社は株式運用部の組織を再編しました。各運用チーム(バリュー・グロース・スモール)の強みを融合し、情報や分析等の幅広く効率的な共有連携を推進しています。海外株式グループとも一段と連携のうえ、銘柄分析力等をより強化し、運用力の向上を図っていきます。

運用組織の再編後も、当ファンドの運用プロセスに変更はありません。原点を再確認しつつ、今後とも「優良」かつ「割安」な銘柄を「厳選」した運用を継続し、長期で良好なパフォーマンスをめざして参ります。

・市況の変動等により、上記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。

本資料で使用している
指数について

■ 東証株価指数(TOPIX)、日経平均株価

本資料中の指数等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。また、発行者および許諾者が指数等の正確性、完全性を保証するものではありません。各指数等に関する免責事項等については、委託会社のホームページ(<https://www.am.mufg.jp/other/disclaimer.html>)を合わせてご確認ください。

- 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。
- 上記は指数を使用しています。指数については【本資料で使用している指数について】をご覧ください。
- 算出時点によって結果も異なる点にご注意ください。

優良日本株ファンド 【愛称:ちから株】

ファンドの目的・特色

【ファンドの目的】

わが国の株式を実質的な主要投資対象とし、競争力のある優良企業の株式の中から、割安と判断される銘柄に投資することにより、値上がり益の獲得をめざします。

【ファンドの特色】

- わが国の株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の成長をめざします。
 - 株式の実質組入比率は、原則として高位を保ちます。
- 競争力のある優良企業の株式の中から、割安と判断される銘柄(ちから株)を厳選して投資します。
 - 銘柄選定にあたっては、株価の割安度等に着目して30~50銘柄程度に投資を行います。
 - 実際の運用にあたっては、主に優良日本株マザーファンドを通じて投資を行います。

競争力のある優良企業とは

業界内のシェアや株主還元、財務の健全性等の観点で、相対的に評価が高いと委託会社が判断する企業をいいます。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

投資リスク

基準価額の変動要因: 基準価額は、株式市場の相場変動による組入株式の価格変動等により上下します。また、組入有価証券等の発行者等の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の影響を受けます。これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。主な変動要因は、価格変動リスク、信用リスク、流動性リスクです。上記は主なりリスクであり、これらに限定されるものではありません。くわしくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

本資料のご利用にあたっての注意事項等

■本資料は三菱UFJ国際投信が作成した情報提供資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。■本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。■投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

ファンドの費用

◎お客さまが信託財産で直接的に負担する費用

購入時	購入時手数料	購入価額に対して、 上限3.24%(税抜 3%) 販売会社が定めます。 ※消費税率が10%となった場合は、 上限3.3%(税抜 3%) となります。 くわしくは、販売会社にご確認ください。
換金時	信託財産留保額	ありません。

◎お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

保有期間中	運用管理費用(信託報酬)	日々の純資産総額に対して、 年率1.08%(税抜 年率1%) をかけた額 ※消費税率が10%となった場合は、 年率1.1%(税抜 年率1%) となります。
	その他の費用・手数料	以下の費用・手数料についてもファンドが負担します。 ・監査法人に支払われるファンドの監査費用 ・有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料 ・有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用 ・その他信託事務の処理にかかる諸費用等 ※上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。

※運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。毎決算時または償還時にファンドから支払われます。
※上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。なお、ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。
<課税関係>課税上は、株式投資信託として取扱われます。個人投資者については、収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。NISA(少額投資非課税制度)およびジュニアNISA(未成年者少額投資非課税制度)の適用対象です。税法が改正された場合等には、変更となる場合があります。

●設定・運用は



三菱UFJ国際投信

三菱UFJ国際投信株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会: 一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

お客様専用
フリーダイヤル **0120-151034**
(受付時間/営業日の9:00~17:00)

●ホームページアドレス: <https://www.am.mufg.jp/>

優良日本株ファンド 【愛称:ちから株】

販売会社情報一覧表

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は下記の販売会社まで

商号	登録番号等	日本証券業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融 商品取引業 協会
株式会社阿波銀行	登録金融機関 四国財務局長(登金) 第1号	○			
株式会社イオン銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金) 第633号	○			
株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第44号	○		○	○
岡三オンライン証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第52号	○	○	○	
おきぎん証券株式会社	金融商品取引業者 沖縄総合事務局長(金 商)第1号	○			
株式会社沖縄海邦銀行	登録金融機関 沖縄総合事務局長(登 金)第3号	○			
カブドットコム証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第61号	○		○	
株式会社紀陽銀行	登録金融機関 近畿財務局長(登金) 第8号	○			
株式会社京葉銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金) 第56号	○			
株式会社筑波銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金) 第44号	○			
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商) 第140号	○		○	○
株式会社栃木銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金) 第57号	○			
株式会社鳥取銀行	登録金融機関 中国財務局長(登金) 第3号	○			
フィデリティ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第152号	○			
株式会社北陸銀行(インターネット専用)	登録金融機関 北陸財務局長(登金) 第3号	○		○	
三菱UFJ信託銀行株式会社	登録金融機関 関東財務局長(登金) 第33号	○		○	
株式会社山梨中央銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金) 第41号	○			
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第195号	○	○	○	○

WEBサイトのご案内

当ファンドに関するメディア掲載情報等を
ホームページに掲載しております！

今すぐ
CHECK!



メディア掲載・セミナー情報等

